



The noblest  
Queen.

Author. The young queen

published in 2nd. June 7th

# 悪魔の生き残り

昔々の大昔

ノアが箱舟拵えて  
生き物たちを招き入れた  
牛馬ライオンマントヒヒ  
全てのつがいを招いたが  
どうにも埋まらぬ席がある  
ほんのわずかな席がある

考えた拳句ご近所の  
ヤコブを船に招き入れた  
ヤコブは嫌がり暴れたが  
洪水と共に感謝した  
小さな席に感謝した

雨がやんだ次の日に  
なにか悲しげな声がある  
見るとウサギの片割れが  
骨を残してそこにいた  
肉は残らず消えていた

ノアが寝ていた夜の事  
何か大きな声がある  
鬼気迫る泣き声がある  
見ると羊の片割れの  
右足すっかり消えていた  
あたりは一面いい香り  
ごちそう焼けるいい香り

ノアはヤコブを問い詰めた  
貴様の胃袋かっきって  
ご馳走の破片を探してやると  
所がヤコブは否定した  
私は肉は食べないと  
露と草しか食べないと

ノアの疑い晴れることなく  
ヤコブにつけた銀の鈴  
どこにいるのかわかるよう  
ゆわえた白い銀の鈴

しばらく何も起きなかった  
陸地は依然見つからないが  
獣の数は変わらずに  
ヤコブもスズを持っていた

或る晩ノアが放したカラスが  
怠けてすぐに戻ってきた  
ノアは呆れて杖でぶち  
ヤコブと同じ席にした  
ヤコブの頭を席にした

カラスは気になる銀の鈴  
ピカピカ光る銀の鈴  
ヤコブが眠りに就こうとすると  
カラスはつつく銀の鈴  
ちりんちりと眠りを破る  
一晩ずっとつつきつづける

これにはヤコブも困り果て  
カラスを殺すか、鈴を外すか  
頭を下げてノアに頼む  
所がノアは知っていて  
どちらもならんとはねつける

ヤコブの髪はカラスに編まれ  
首には赤い模様が出来た  
寝られず顔はひどい顔  
クマが大きく垂れ下がり  
ときどきひきつるほほの肉  
それでも鈴は鎮座して  
ちりんちりと困らせる

ノアが目覚めたその朝に  
鈴の音色が聞こえない  
不審に思い覗いたら  
カラスの下に大きな鳥が  
大きく奇妙な黒い鳥  
カラスにつがいは

いないはず

どこからきたのかこの鳥は  
見れば首には銀のあざ  
哀れなヤコブは3日間  
突かれ、脅され、いびられて  
それでも外せぬ銀の鈴  
取るべき道はただ一つ  
己自身を花嫁に  
黒い羽毛を植え付けて  
黒いくちばし据え付けた

哀れなヤコブはどうとうに  
悪魔となって船にいる  
鳩が陸地を見つけたあとは  
カラスと共に飛び立った  
こうしてノアのご近所の  
哀れなヤコブは生き延びた  
こうしてつがいと人間と  
悪魔は生き延び今にいる  
洪水生き延び今にいる

# 気高き女王

青い沼地に白い苔  
黒い花咲く白い丘  
雨が絶えない銀の国

国の名高らかに広めるは  
ああ、彼女に栄光あらんこと！  
気高い女王 アンマリア  
星をも凌ぐ美しさ  
バラより気高いその気品  
剣を振るえば虎をも殺し  
歌で人魚をかどわかす

彼女に仕える魔物たち  
ああ、彼女に栄光あらんこと！

女王が捨てた爪から生えた  
かびた緑のされこうべ  
真っ赤に下げた鍬と鎌  
白い大地にあばたを起こし  
育てふやせよケシの花  
女王の髪を飾る花  
ああ、彼女に栄光あらんこと！

女王がむしったもつれた髪から  
黒き盾もつ乙女たち  
あらぶる武者もその前に  
ただただおののきひざまづく  
女王の力にひざまづく  
許しを得んとひざまづく  
ああ、彼女にえいこうあらんこと！

女王が漏らしたいばかりから  
でろでろ腐った泥人形  
村から赤子を連れ去って  
まずいおかゆで育て上げ  
すすけたコインと取り換える  
女王のふところ潤すために  
女王の蔵を満たすため  
ああ、彼女に栄光あらんこと！

女王がかじったリングから  
生まれた赤い大男  
宣戦布告もそこそこに  
大地を真っ赤に踏み荒らす  
真っ赤な靴で踏み荒らす  
女王の威光を広めんと  
ああ、女王に栄光あらんこと！

女王が割ったくるみから  
生まれた鋼の大ネズミ  
広い大地をがりがりど  
かじって広げる闇の国  
光のささない女王の王国  
ああ、女王に栄光あらんこと！

気高い女王の国民は  
シルクの信念、銀の夢  
鋼の愛をその胸に  
緑の森を焼き払い  
光る外海埋め立てる  
女王以外の美しさ  
奪ってしまえと言われれば  
他に考えるすべも持たず

汚い老人は言う  
女王は罰を受けるだろうと  
それがいつかは知らないが

腹だたい、刻んでしまえ

それが最後の言葉になった

しかし、本当の事実になった



# 魔弾の射手

バスガス爆発

いけにえに家族を

悪魔にお願いして

手に入れた弾丸は7発

**20**グラムの弾丸は

世界各地を飛び回る

朝日よりも早くさし

時よりも確実に訪れる

月に餅つくウサギでさえも

狙った獲物は逃さない

**1**発目は嫌いな奴に

暴力をエサに働く脳を

通り道にしてやった

それで僕は安心か

顔を腫らすことこそないが

立場はすぐに置き換わる

友達でさえも置き換わる

**2**発目は偉い政治家に

英知を表す広い額の

見通しを良く

これで僕は英雄か

朝になれば替えがいる

**1**億人の替えがいる

**3**発目は最愛の人の最愛な人へ

彼女がキスするその場所に

代わりに冷たい接吻を

これで僕は恋人か

彼女は旅に出て行った

二度と帰らぬ旅に出た

4発目は自分を守るために  
闇で輝くその眼  
思わず放った悪魔の土産  
赤い一閃言葉もなく  
これで僕は安全か  
ナイフを握ったその右手  
あの指輪は兄さんの  
墓で泣いてたあの女性  
憎しみこめて指をさす  
命が消えても指をさす  
僕は姉を失った

5発目は秘密を知った親友に  
記憶を残すシナプスの  
余分な部分を刈り取った  
これで僕は安心か  
生きるためには友がいる  
心通わす友がいる  
僕は目的を失った。

6発目は様子を見に来た悪魔に  
角と角の真ん中に  
鉛の記念碑打ち込んだ  
これで僕は安心か  
たしかに弾は当たったが  
悪魔は笑いよるこんだ  
あと一発だと喜んだ

最後は鳥を喰えた野良猫に  
十字の模様の真ん中に  
弾丸1発、死体が2つ  
どこかで小さい声がする  
母を求める声がする

# 色の国

赤を青く塗りつぶせ  
赤は血液と同じ色  
怒りを生む色消し去るために  
青は空と海の色  
大きく広く果てしない  
青く青く塗りつぶせ

青を緑に塗りつぶせ  
青は死体と同じ色  
早く死の色消し去るために  
緑は森と草の色  
命をはぐくむ母の色  
緑に緑に塗りつぶせ

緑を黄色く塗りつぶせ  
緑は毒と同じ色  
悲しみ生む色消し去るために  
黄色は日の色晴れの色  
明るく照らす父の色  
黄色く黄色く塗りつぶせ

黄色を白く塗りつぶせ  
まなこを突き刺すその色  
刺激の色を消し去るために  
白は乙女と雪の色  
全てを許す清い色  
白く白く塗りつぶせ

白を黒く塗りつぶせ  
空虚を示すその色  
無を生む色を消し去るために  
黒は終わりと始まりの色  
全てを制する王の色  
黒く黒く塗りつぶせ

黒く黒く塗りつぶし  
色はすべてついていたが  
見えないだけでそこにいる  
黒には全ての色がある

# 夜を徘徊する

命を含んだ赤い液体  
大しておいしいわけでもないが  
口に含まずにはられない  
食事の時間が終わるころには  
夜は明日の準備を始める  
私を追い出す準備を始める  
戦えないわけでもないが  
太陽に勝ち目はなく  
すごすごと棺で眠るしか  
不満を晴らす手段はない  
伸びる犬歯を指でなぞり  
ヒマワリとは遠い世界にいることを  
その鋭さで確かめる  
十字が怖いわけではないが  
この手に火傷は作りたくない  
どうせ同じ一日なら  
生きることに執着もせず  
のんびんだらりと生きている